

梅澁吉兵衛叢心記

曲亭馬琴作
勝川春扇画

2378
64



梅^う茂^き吉^ち兵^{へい}衛^ゑ發^{はつ}心^{しん}記^き



西^{せい}亭^{てい}馬^ま琴^{きん}作^{さく}
勝^{かつ}川^{かわ}春^{はる}扇^{せん}画^ゑ

仙^{せん}鶴^{かく}堂^{どう}板^{ばん}

遠^{とほ}
2378
64

文化八年印本



是より左へ
前編三冊 真間徑橋道

曲亭馬琴作

採譜吉兵衛鼓心記

通油町 つばや右馬の板

勝川春扇畫

是より右へ
後編三冊 葛飾小梅村

勝川春扇畫

一樹寒梅白

五條通

臨村路

傍溪橋不知進水花

先發疑是經春雲未消

唐戒旻



かつりやまの間の手古くるとあめりなる
茶葉集の古風を捨て浅黄庶子は深くと梅洪吉兵衛が二つ物持
ハ、今更け人よ小厨の廓がくハ、闇ハあまハ、紅梅がまはけまは煙草盆
まの多きハ、新艘の真実ハ、晦日の大月、杖刀の切傷ハ、蛇敷の姫君と云
まのの従務と多し因果觀面よ、久苗田一角が懺悔活を、終りまは
河原と主と云る小梅村ハ、一樹の清風春よ先ぞ香の葉のむじ、貴美歌ハ、一尺景

文化己七月稿同八年正月發販

曲亭馬琴

海峽を渡る影





野見家の
久苗田一角

袂の
遠の
素の

卯月我

假羅漢

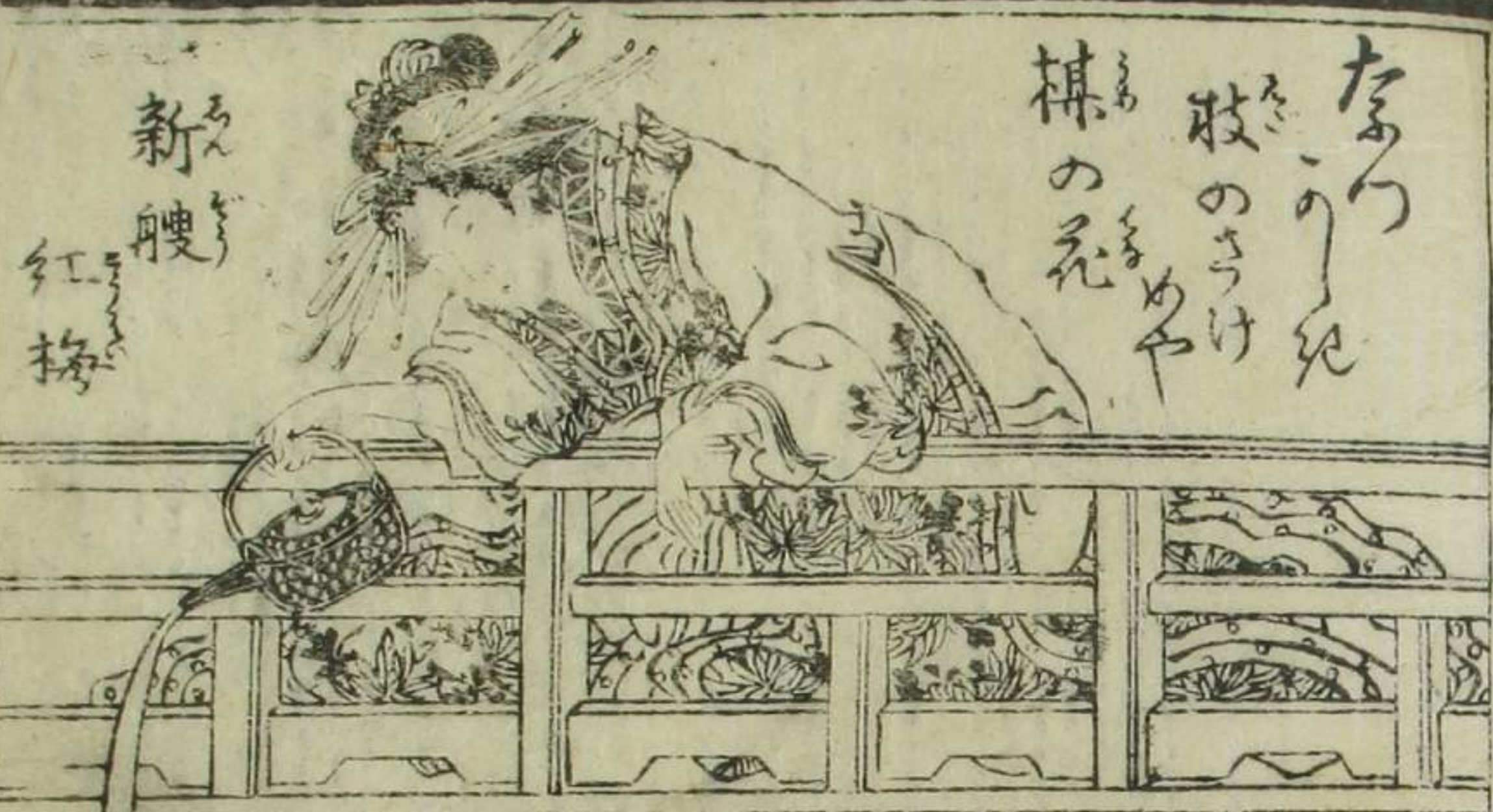
加世俱和
尊者

秋少
人の
こ
結ル
え



手
買
の
叔
改
申

胡椒頭中の梅浪吉兵衛



新
艘
紅梅

なつ
の
枝
の
さ
け
梅
の
花



か
つ
の
梅

六
の
花
の
う
さ
ぎ
ん



梅
の
さ
け
し
は
な
の
ふ
し

丁
雜
長
吉

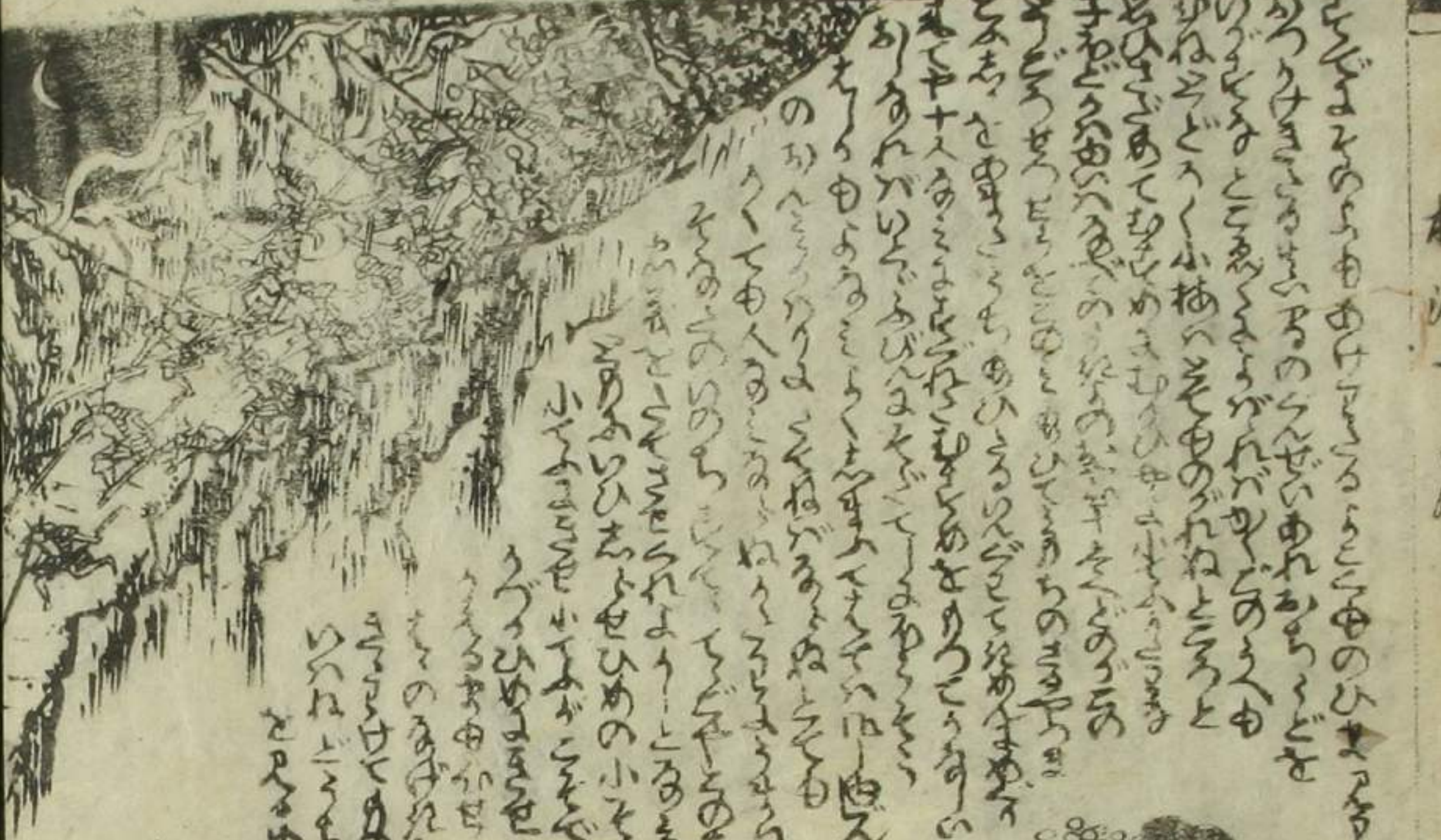
貞
節
の
継
橋
姫

手
あ
ら
わ
さ
る
善
い
と
そ
梅
の
う
さ
ぎ
ん

二之卷



Handwritten Japanese text in kuzushiji script, arranged in vertical columns around the illustrations. The text includes names and descriptive phrases.



Handwritten Japanese text in kuzushiji script, arranged in vertical columns around the illustrations. The text includes names and descriptive phrases.



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, arranged in vertical columns. The text is dense and covers most of the lower half of the page. Some characters are larger and more prominent than others, possibly indicating specific names or titles. The script is consistent throughout the page.



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, located at the bottom of the page. The text is arranged in a horizontal line and appears to be a continuation of the text from the upper part of the page or a separate section.



あまの
ひかり
あまの
あまの

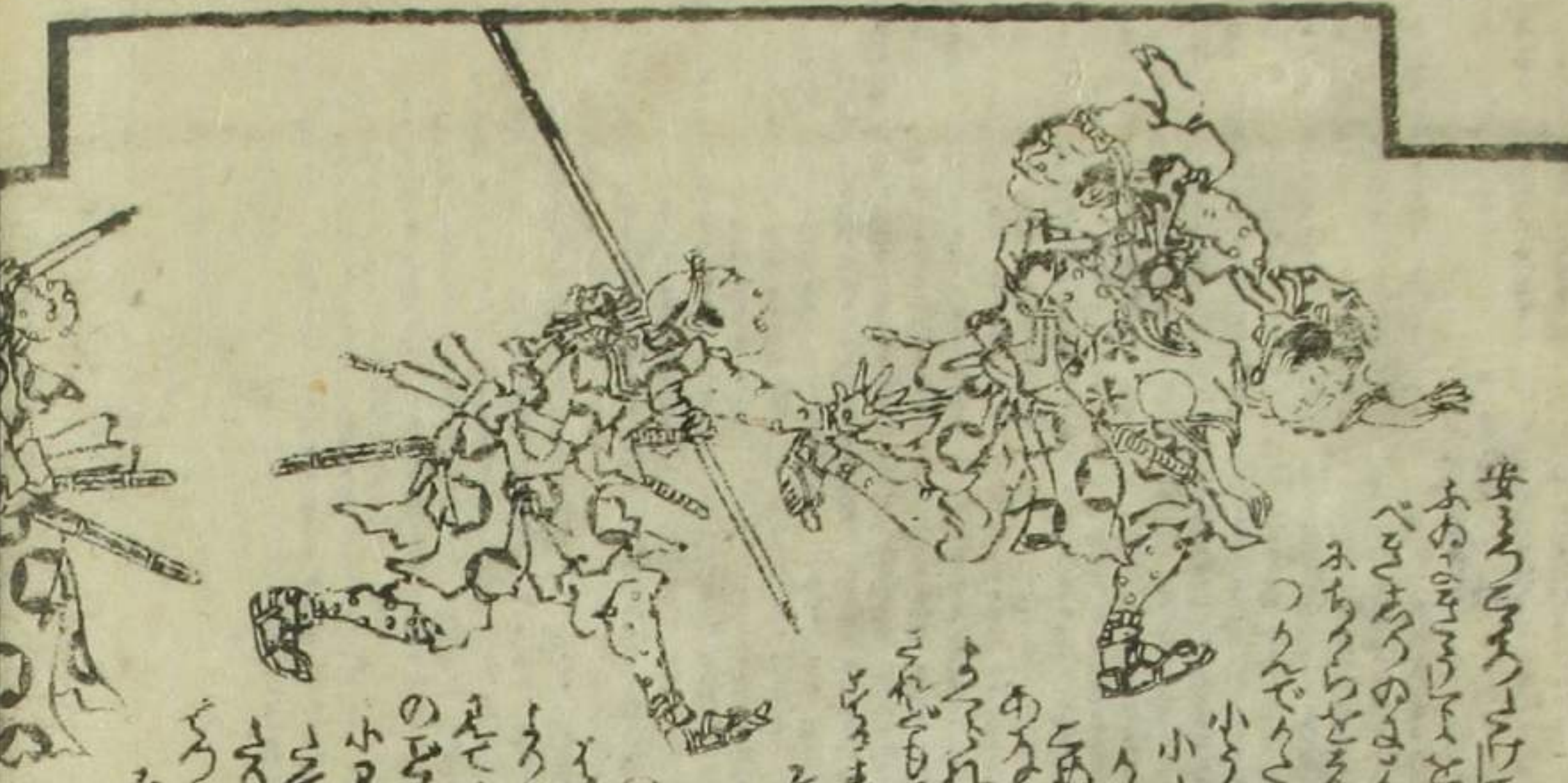
あまの
あまの
あまの
あまの



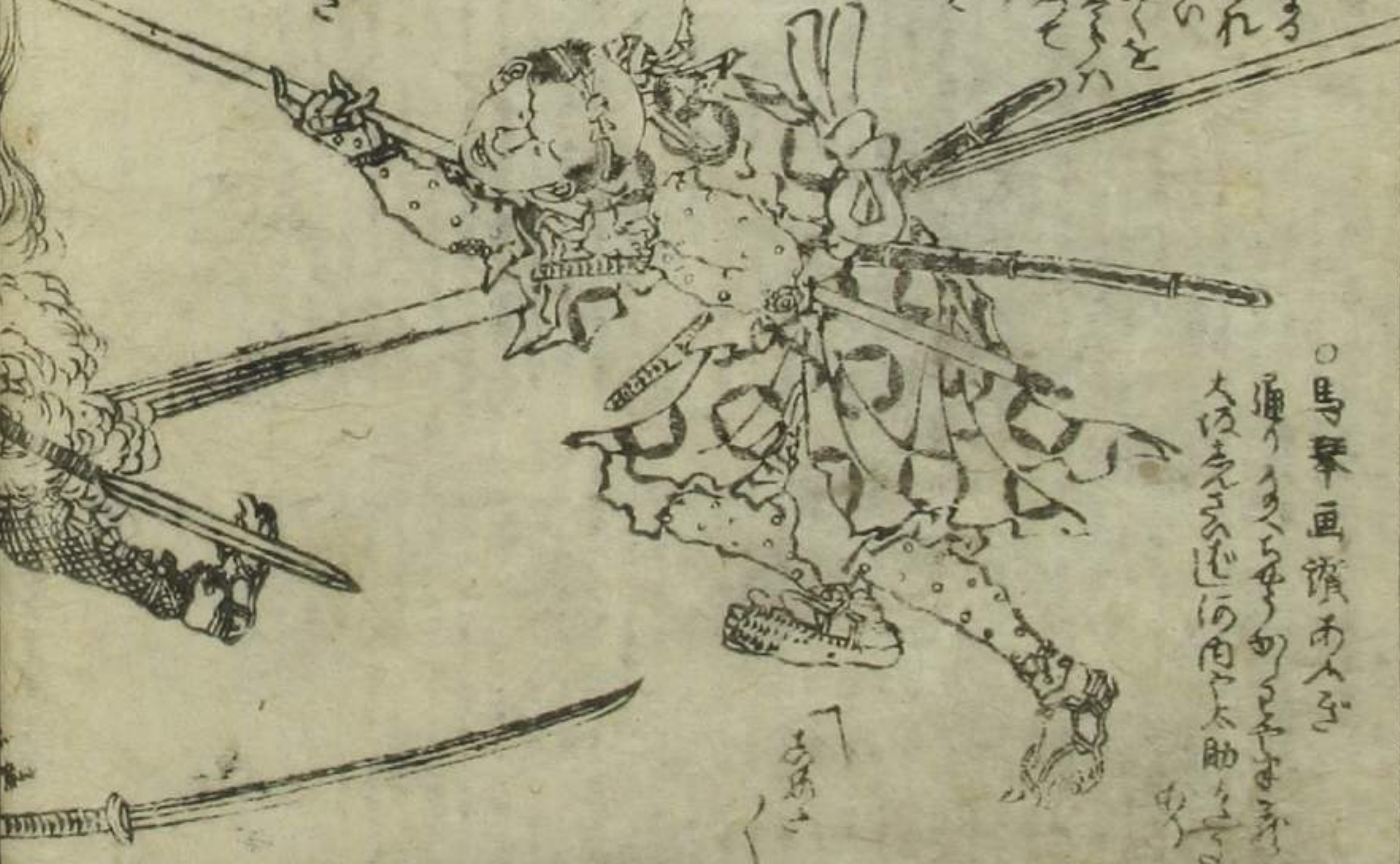
あまの
あまの



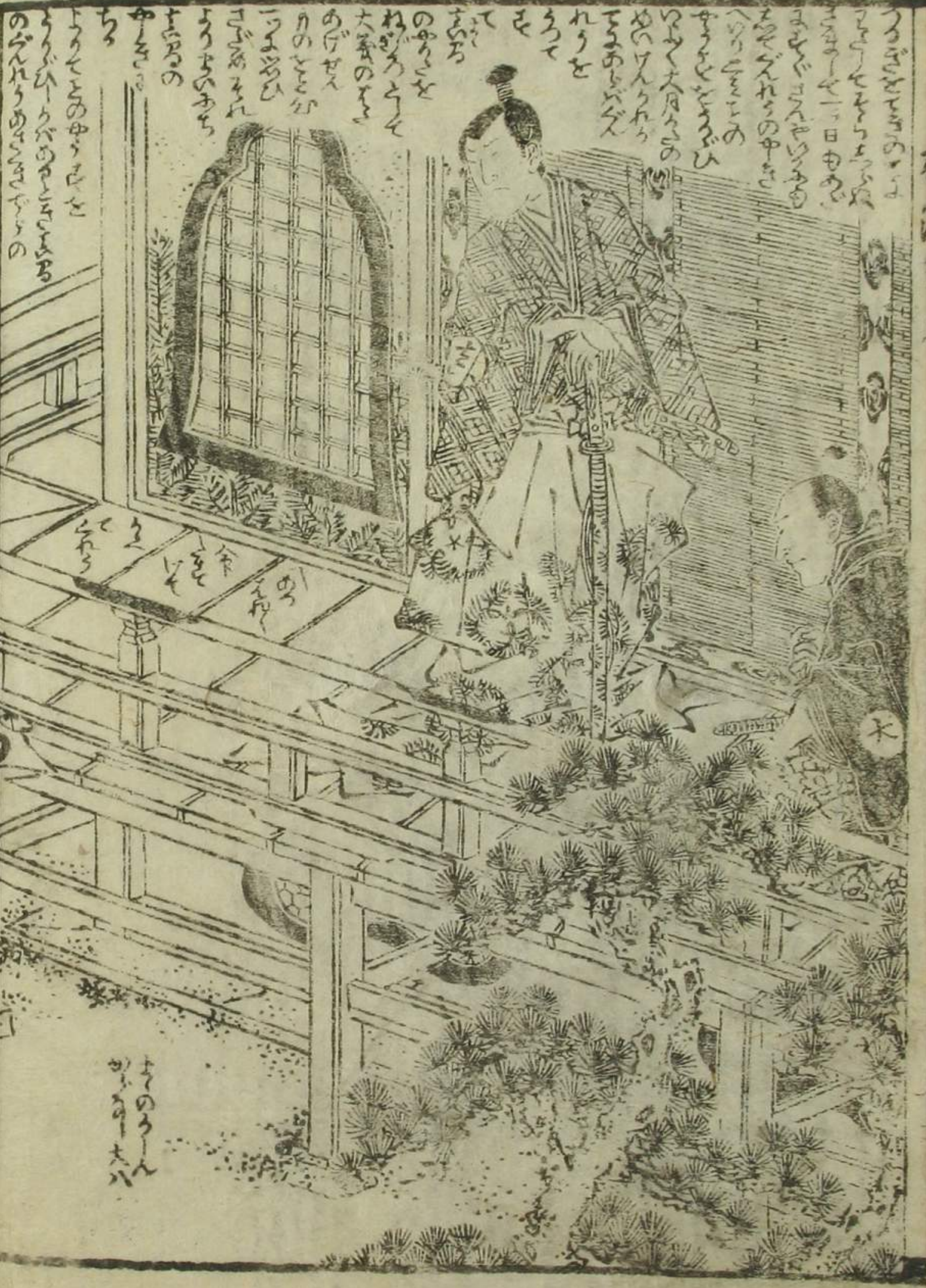
あまの
あまの
あまの
あまの



あまの
あまの
あまの
あまの



あまの
あまの
あまの
あまの



つらさうてそのまゝ
 こそとそらちうね
 なるは二日の中
 まてふんせいの
 とぞえれちのち
 へりていひ
 ずとていひ
 りて大月さの
 めのけんわ
 てまのいん
 れうを
 うて
 ち
 まち
 のちを
 ねがうとて
 大業のま
 のげせ
 かのま
 ころい
 こいあ
 ようま
 まの
 ち
 ようてこのち
 り
 のんれうのち

よのう
 ちのう
 ちのう



つらさうてそのまゝ
 こそとそらちうね
 なるは二日の中
 まてふんせいの
 とぞえれちのち
 へりていひ
 ずとていひ
 りて大月さの
 めのけんわ
 てまのいん
 れうを
 うて
 ち
 まち
 のちを
 ねがうとて
 大業のま
 のげせ
 かのま
 ころい
 こいあ
 ようま
 まの
 ち
 ようてこのち
 り
 のんれうのち

よのう
 ちのう
 ちのう

あまのう

あまのう

卷之五

Handwritten text in the upper left section of the left page, likely a preface or introductory text.



Small handwritten text located at the bottom left of the left page, below the main illustration.



Main block of handwritten text on the right page, positioned to the right of the central illustration.

Small handwritten text located in the upper right section of the right page, above the window illustration.

Handwritten text in the upper left section of the left page, written in vertical columns.



Small handwritten text located at the bottom left of the illustration on the left page.

Handwritten text in the upper right section of the right page, written in vertical columns.



Handwritten text in the lower right section of the right page, written in vertical columns.



春扇画
 春の扇画は、春の景色や花鳥を扇の形に描き、扇の柄に合わせた装束を着た女性が扇を開き、扇の絵柄を鑑賞する様子を描く。扇の絵柄は、春の景色や花鳥をモチーフとし、扇の柄は、春の気配を演出する。扇の絵柄は、春の景色や花鳥をモチーフとし、扇の柄は、春の気配を演出する。

扇の絵柄は、春の景色や花鳥をモチーフとし、扇の柄は、春の気配を演出する。扇の絵柄は、春の景色や花鳥をモチーフとし、扇の柄は、春の気配を演出する。



馬琴作
 馬琴作の扇画は、春の景色や花鳥を扇の形に描き、扇の柄に合わせた装束を着た女性が扇を開き、扇の絵柄を鑑賞する様子を描く。扇の絵柄は、春の景色や花鳥をモチーフとし、扇の柄は、春の気配を演出する。

武簡書

